

## 奨学生選考総評

毎月の「佳作」選考では、氏名はもちろん、年齢も見ないで評価することになっている。佐々木泰樹育英会の奨学制度は全国的な知名度もあり、安易に選ぶわけにはいかない。おそらく、全投稿作品の2パーセントくらいにしか「佳作」を付けていない。その中で「佳作」が年間10篇以上もあるということだけで、奨学生になれる資格は十分だと思う。全年齢を考慮しないで選んだのに関わらず、高校生が3名もいたことは素晴らしいことだと思う。大学生たちの作品もみんな魅力があった。

文学に携わる一人として、若い文学人の未来を応援する奨学制度には感謝するばかりだ。奨学生になった人たちも、期待されていることに自信を持って、思い切って、だけど繊細に、言葉と向き合っていてほしい。

秋亜綺羅